

# ちょっと行ってみいへんで! 四国八十八箇所編

～11番札所から17番札所まで～



今回は、11番から17番をご紹介します。



## ふじ い であ 藤井寺

本尊 薬師如来



10番札所切幡寺から南へ約12.2キロ。四国三郎とよばれ、236キロの長さを持つ吉野川を渡ります。門前や境内には、かつては古い遍路宿があったと言います。三方を山に囲まれ幽すいな霊地に心惹かれた大師が堂宇を建立し、自刻の尊像を泰安し、17日間護摩修法され、堂塔の前に五色の藤を植えられ、藤井寺と名付けられました。本堂天井には、迫力ある龍が描かれていました。歩く遍路は近くの宿で泊まり、翌朝出発して焼山寺へ向かいます。道中には大師の多くの遺跡があり、男8時間、女9時間の難行は16キロありますが、車なら石井、寄井を通り1時間弱で行けます。  
※藤の花は例年4月下旬～5月下旬が見ごろだそうです。ここは駐車場が有料でした。



## しょう さん じ 焼山寺

本尊 虚空蔵菩薩



藤井寺から約43キロ。四国札所には6カ所の苦行の場があります。ここ12番焼山寺と、20番鶴林寺、21番太龍寺、27番神峰寺、60番横峰寺、66番雲辺寺の各札所ですが、それぞれ「遍路ころがし」と言われるほど険しい山上に寺があります。伝説によれば、この山には魔の毒蛇がいて、作物や人畜に火を吐いて危害を加え、大師が登山しようとした時も全山火の海でした。大師が垢取川で身を清め法輪の印を結び真言を唱えながら登ると、火は順次消え、9合目に達したとき岩窟から毒蛇が飛びかかりました。このとき虚空蔵菩薩が現れ、大師とともに毒蛇を岩窟の中へ封じ込めました。

※車でかなり山を上がって行きます。運転をして頂いた豊田さんは大変だったと思います(ご苦労様でした)。取材日はあいにくの天気でしたが、とにかく眺めが素晴らしいです。



第13番

# だい にち じ 大日寺

本尊

十一面観世音菩薩

焼山寺から約27.6キロ。変化に富んだ美しい溪谷が続く鮎喰川沿いを下ります。弘仁6年(815年)弘法大師がこの地に巡錫され「大師の森」というところで護摩修法されているとき、現在寺のある付近から大日如来が示現し「この地は聖



地なれば、一字を建立すべし」と告げられました。道を隔てて「一宮神社」があり、ここの本地仏・行基菩薩作の十一面観世音菩薩が、現在は本尊となっています。このため大日如来は脇仏となっています。境内には新しい「しあわせ観音」もありました。

※徳島市内に在住の方で四国八十八箇所霊場に興味のある方は、第13番札所大日寺から第17番札所井戸寺までは車で一気に巡ることができますので、ここから始めるのもいいかもしれませんね。



第14番

# じょう らく じ 常楽寺

本尊

弥勒菩薩

大日寺から約3.4キロ。弘法大師がこの地で修行されているとき、弥勒菩薩を感得され、ただちに尊像を刻み、堂宇を建立して安置しました。弥勒菩薩は56億7千万年後、兜率(とそつ)天という所からこの世に下られ、釈迦の救いが得られなかった人々を救済すると言われています。境内の地面が波打っていてまるで土柱のようです。そして本堂前の大木の上には、なぜか石仏が鎮座しています。



第15番

こくぶんじ  
国分寺

本尊 薬師如来



常楽寺より約700メートル。重厚な感じの二層の本堂には、ありし日の大寺としての面影がうかがえます。



現在は太子堂を建設中のようです。北に約1キロ、現在のJR府中駅あたりに政治の中心である国府がありました。寺で授けるお札は、いっさいの汚れを清浄にすることからお手洗いにまつようです。

第16番

かんのんじ  
観音寺

本尊 千手観世音菩薩

国分寺より約1.7キロ。昔ながらの遍路道の両側に商店等が並び、のんびりした田舎の町中にひっそりとたたずむ札所です。本堂は近年再建されています。弘仁7年に弘法大師が留錫し本尊のほか脇土の不動明王、毘沙門天を刻まれ安置されたといわれます。ここには「夜泣き地藏」があります。この周辺は古代阿波の文化の中心地で、近くに大御和神社があります。



第17番

いどじ  
井戸寺

本尊 七仏薬師如来

徳島本線の府中駅の近くにあり、観音寺からは約3キロ。山門には、背丈の倍ほどの大きなわら草履があります。弘法大師は、この地方の濁水を憂いて、錫杖で井戸を掘られたら、清水がこんこんと湧き出でて、大師のお姿を写されました。おもかげの井戸というのも、また井戸寺のいわれもここに由来しています。納経所の手前に水大師のお堂があります。日を限って誓願すれば直ちに御利益多く、この日限大師堂ひかぎりの井戸をのぞいて姿が映れば無病息災であるといわれています。はっきりと見えなければ不安ですね。



(担当：小西孝英・豊田雅信)

取材を終えて  
小西孝英

今回の取材ではじめて四国八十八箇所霊場の一部を巡ることとなりました。限られた時間の中の取材でしたが、巡礼をしているうちに段々と心穏やかになっていく自分に気付くことができました。また取材日は、行く先々で白装束のお遍路さんともすれ違い、あらためてその人気の高さを認識いたしました。

これを機に、私自身他の霊場も巡ってみたいと思いました。

